

消防通信

北から

南から

MIE

きらめく自然 ときめく四日市

四日市市は三重県の北部に位置し、西は鈴鹿山系、東は伊勢湾に面した温暖な地域です。江戸時代、市場町・湊町の四日市に「宿場町」「陣屋・代官所の町」が加わり、北勢の行政・商業の中心地として知られるようになりました。幕末から明治にかけ、菜種油・肥料の生産や取り引きの盛んな町として栄え、四日市港の修築を機に、生糸・紡績を中心とした繊維工業へ、さらに機械工業や化学工業の進出が相次ぎ、日本の近代工業化への歩みを模したかのような形で四日市地域が商工業の都市に進展しました。明治30年に市制を施行し、昭和5年に塩浜、海蔵の両村を合併して以来、周辺町村を併合し平成17年2月の楠町との合併で現在の市域になりました。昭和30年代以降石油化学工場等の進出は、大気汚染等の公害をもたらしましたが、今では環境浄化に努力し、自然との調和を目指した街づくりに邁進しています。



四日市コンビナート

大規模災害対策

当市消防本部は、1本部3署4分署2分駐所、320名の消防職員と2消防団29分団、527名の消防団員の体制で、1市2町管轄人口33万5,660人(世帯数13万3,067世帯)管轄面積220.22km²の消防業務を担い、日夜住民の生命、身体及び財産を守っています。

さらに災害に強いまちづくりのため、訓練を通じて自主防災組織の自主的な取組の支援を行うとともに、大規模地震発生時の消防水利確保のため耐震性貯水槽を計画的に設置し、消防水利の二重化を図り火災の延焼拡大防止に万全を期しています。また、消防職団員OBの消防支援隊としての組織化をさらに進めて地域における総合防災力を高め、緊急消防援助隊が大規模災害時に有効に機能するよう県内あるいは県域を越えた合同訓練に積極的に参加し、広域応援体制に万全を期しています。

安心・安全なまちづくりに向けて

平成20年11月、安心・安全なまちづくりを目指し、「8分消防・5分救急」体制の早期実現、消防力の強化と救急体制の充実をはかるため、市内中央部に四日市市

三重県 四日市市消防本部



三重県 四日市市消防本部
消防長 北川 保之

中消防署中央分署を開署しました。同分署は、鉄筋コンクリート造3階建ての免震構造で、消防分署機能に加え将来的な消防



四日市市中消防署中央分署

無線のデジタル化に対応して、桑名市、四日市市を含めた北勢地域を視野に入れた総合通信指令センター(予定)、大規模災害時における他都市からの応援消防部隊の集結基地及びヘリポートをはじめとした消防活動支援センターとしての災害活動拠点機能を兼ね備えた施設となっております。また、配備車両の水槽付きポンプ自動車にあっては、圧縮空気泡消火装置(CAFS)を搭載し、消火活動の効率化と被害の軽減に努めています。

四日市市消防本部のアイドル

市民に親まれ、そして信頼される消防を象徴するシンボルとして、犬のラブラドールレトリバーのデザイン3種類(消防・救助・救急)をイメージキャラクターとして採用し、消防車両のシャッターなどに描き、市民に「ラブ」の愛称で親しまれています。



イメージキャラクター「ラブ」

また、平成20年11月には、着ぐるみを作製し消防行事や広報活動などで活躍しています。

消防プリセプターシッププログラムの策定

団塊世代の大量退職により、平成21年度までの5年間で91名の職員が入れ替わります。経験の浅い職員の増加により、消防行政の質が低下することはあってはなりません。そこで、平成20年に質の高い消防行政サービス提供の維持・向上を図るため「消防プリセプターシッププログラム(マンツーマン体制による新人教育)」を策定し、新人教育体制の確立を図りました。

おわりに

複雑多様化する消防需要に対応し、市町民33万人が安心して安全に生活できるまちづくりに向け、職員一丸となって全力を尽くします。